

News 2 農林水産祭「実りのフェスティバル」を開催



天皇杯の受賞概要を展示する「天皇杯コーナー」。



全国各地の特産品が並ぶ。

全国の旬の農林水産物がそろうお祭り

農林水産祭「実りのフェスティバル」は食と農林水産業の祭典です。都道府県・団体のブースでは全国各地の旬の農林水産物が勢ぞろい。試飲・試食・販売が行われます。

そのほかには、今年度の農林水産祭参加表彰行事で、天皇杯を受賞した方々の受賞概要がパネルで紹介される「天皇杯コーナー」もあります。天皇杯等3賞の選賞は、過去1年間の農林水産祭参加表彰行事で農林水産大臣賞を受賞した方の中から、天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞が決定されます。

また、農林水産省の各種施策を紹介する「政府特別展示コーナー」や都道府県独自の農林水産技術を紹介する「都道府県技術・経営普及展示コーナー」のほか、体験乗馬や全国のゆるキャラに出会えたりと、楽しい催しが盛りだくさんです。



政府特別展示コーナー。



全国や各団体のゆるキャラたちが勢ぞろい。



ポニーの体験乗馬やうさぎとの触れ合いコーナーも。



※写真は平成28年度のものです。

平成29年度(第56回)農林水産祭「実りのフェスティバル」

日時：平成29年11月10日(金)、11日(土)
10:00～17:00(11日は16:00まで)

会場：サンシャインシティ
ワールドインポートマートビル4階
展示ホールA(東京都豊島区東池袋3-1)

入場料：無料

詳細はこちらへ！

公益財団法人日本農林漁業振興会▶



マフトピックス

MAFF TOPICS

MAFFとは農林水産省の英語表記「Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries」の略称です。「MAFF TOPICS」では、農林水産省からの最新ニュースなどを中心に、暮らしに役立つさまざまな情報をお届けいたします。

取材・文／細川潤子

News 1 10月は「木づかい推進月間」です



(一社) more trees の国産材活用製品事例。
上・左上／シンプルな三角形の「つみき」。建築的要素を取り入れ、積み方しだいでさまざまなオブジェを作り出せる。国産スギの無垢材を使用。デザイン・隈研吾氏。
左下／輪切りにした丸太をそのまま生かした置時計。国産スギを使用。デザイン・角田陽太氏。

「木づかい運動」をご存じですか？

日本は国土面積の約3分の2を森林が占める、世界有数の森林国。中でもその約4割を占める人工林は、今まさに本格的な利用期を迎えており、平成17年度から「木づかい運動」を展開しています。木材を上手に使うことは森林の整備につながり、その結果、国土の保

全、水源の涵養といった森林の有する機能が十分に発揮されることで、私たちの生活を守ることにもつながります。

最近では、木づかいを巡るさまざまな活動や、木の効果が注目されています。名古屋で10月に開催される木づかいシンポジウムでは、「木の香りと健康」と題した講演や、多様な分野で活躍する方々によるパネルディスカッションを通

じて、木づかいの実践と広がりをご紹介します。

また、森林保全団体 more trees が東京で12月に開催するシンポジウム「都市と森をつなぐ」では、同団体が森づくりの環境として取り組む、国産材を活用した製品事例や、木のある暮らしの魅力について紹介されます。森林の産物である木材が、製品として人々のもとに届くまでのストーリーにも、注目していただきたいです。

このように多くの取り組みが行われている「木づかい運動」。林野庁のWebサイトでは、全国各地で行われるイベント情報を掲載しています。年間を通じて多様な取り組みがありますので、ぜひお近くのイベントにお出かけください。きっと、一段と豊かな日々の暮らしにつながるヒントが得られるはずです。



平成28年度木づかいシンポジウム。

木づかいシンポジウム in 名古屋2017 ～木を知り、木を楽しむ～

開催日時：平成29年10月28日(土) 13:30～15:30
場所：ポートメッセなごや ウッドワンダーランド内
(愛知県名古屋市中区金城ふ頭2-2)

内容：基調講演(東京大学名誉教授 谷田貝光克氏)
パネルディスカッション(東京おもちゃ美術館 馬場 清氏ほか)

問い合わせ：特定非営利活動法人 活木活木森ネットワーク
電話 03-5844-6272



一覧はこちらへ！

全国で開催される木づかいイベント▶

more trees シンポジウム「都市と森をつなぐ」

開催日時：平成29年12月19日(火) 14:00～(予定)
場所：木材会館(東京都江東区新木場1-18-8)

内容：基調講演(建築家 隈研吾氏)
トークセッション(隈研吾氏、坂本龍一氏)

入場料：無料(事前申込制)

問い合わせ：一般社団法人 more trees
Eメール info@more-trees.org



読者の声

読者の皆さまから寄せられた
『aff(あふ)』8月号への
ご意見・ご感想を紹介します。

「夏野菜」の特集はよい勉強になりました。厳しい夏をのりきるのに役立つ、この時期の野菜の効果が改めてわかりました。また、トマトの種類の多さに驚きました。(60代以上・女性)

生食用のトマトを、まだ青いうちに収穫して、消費者の手元に届くころにきれいな赤に熟した状態になることに驚きました。さすが職人技ですね。(40代・女性)

トマトソースで時短レシピは、参考になりました。これからも時短レシピの登場が増えるとうれしいです。(50代・女性)

バーベキューは自己流でやっていたので、食材の焼き加減がいつもいまいちでした。「バーベキュー」の記事はとても参考になったので、次回からは試してみます。(40代・男性)

「あふラボ」の、光で作物の天敵を集めて、害虫防除するとは驚きです。人間って、知恵がありますね。(60代以上・女性)

「MAFF TOPICS」で紹介されていた地理的表示(GI)について、初めて知ることができました。産業保護の観点で、すばらしい取り組みだと思えます。(40代・男性)

広報誌aff(あふ)の感想をお聞かせください

今後よりよい広報誌とするため、読者アンケートにご協力ください。農林水産省のホームページ、広報誌affのサイトから回答できます。



メールマガジンのご案内

大臣メッセージや施策の紹介、イベント情報などをお届けする「農林水産省メールマガジン」を毎週月曜日に発行しております。ぜひご覧ください。無料です。
<http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag>

フェイスブック・ツイッターのご案内

フェイスブック <https://www.facebook.com/maffjapan>
ツイッター https://twitter.com/MAFF_JAPAN

フクロウがシンボルの里づくり

多面的
機能支払
交付金
[第4回]

栃木県で「フクロウの里」として知られる宇都宮市^{さかつら}逆面地区。ここは、都市近郊にありながら、フクロウが暮らし、専門家も驚くほどの自然が残る農村地域です。

農家や自治会などで結成された組織「逆面エコ・アグリ」は、フクロウが暮らせる里山や田んぼを守るため、地元のNPOや宇都宮大学などからアドバイスを受けながら、環境保全の活動を続けています。フクロウが繁殖できるよう、地域住民や子どもたちが巣箱を作って設置したり、エサとなる生きものの生息環境を維持しようと、水路にカエルが落下するのを防ぐためのふたを設置したりしています。

フクロウをシンボルにした活動は、豊かな自然や地域の絆を育むだけでなく、地域ブランド米の誕生にもつながり、経済効果を生み出す取り組みにも発展しています。

地域活動でフクロウを保護・育成



狩りに飛び立つ親フクロウ。
ヒナは巣箱で帰りを持つ。



田んぼの生きもの調査。農村はフクロウだけでなく、地域の子どもも育む。



田んぼと里山を行き来するニホンアカガエル。フクロウの子育てに欠かせない生きもの。



水路へのふたの設置作業。コンクリートの水路は、管理の負担を軽減する一方、カエルが落ちると壁を登れず溺れてしまう。



地域ブランド米「育む里のフクロウ米」

多面的機能支払交付金とは…

農業・農村の有する多面的機能が、適切に維持・発揮されるよう、農用地や水路、農道等の地域資源を保全している地域の共同活動を支援するための交付金です。

News 3 2地域が「ユネスコエコパーク」に登録決定



「みなかみ」
(群馬県・新潟県)

群馬県と新潟県の境は太平洋側と日本海側の大気がぶつかる中央分水嶺の山稜地帯で、世界でも有数の豪雪地帯。そのため独特な地形地質が見られ、多様で希少な動植物が生息するなどの特徴を有する。

写真は谷川岳肩の小屋から望む谷川連峰。
(提供：群馬県みなかみ町)



「祖母・傾・大崩」
(大分県・宮崎県)

九州最高峰の山々が連なり、幅広い植生とともに、ソボサンショウウオなどの希少種が生息する多様な生物種の宝庫。土地固有の民俗芸能が継承されるなど自然への畏敬の念が地域の文化として根づいている。

写真は傾山。
(提供：高野弘之)

昭和51年にユネスコが開始した事業である生物圏保存地域(国内呼称：ユネスコエコパーク)に、「みなかみ」(群馬県、新潟県)および「祖母・傾・大崩」(大分県、宮崎県)の2地域が平成29年6月に登録されました。

ユネスコエコパークは生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目的としており、自然の保護・保全だけでなく自然と人間社会の共生に重点が置かれています。登録には各国からの推薦をもとに、「ユネスコ人間と生物圏(MAB)計画国際調整理事会」で審議、決定がなされます。

なお、現在国内には9つのユネスコエコパーク(只見、みなかみ、志賀高原、南アルプス、白山、大台ヶ原・大峯山・大杉谷、祖母・傾・大崩、綾、屋久島・口永良部島)が登録されています。

News 4 「全国ご当地もちサミット2017 in 一関」を開催

全国には「ご当地もち」が多くあります。もともともち食の伝統が深い日本では、各地域の農産物、商工業資源と結びつけた、地元独自のもちが存在します。

こうしたご当地もちの魅力を伝えることを目的として、今年で6回目となる「全国ご当地もちサミット2017 in 一関」が開催されます。開催地となる岩手県一関市は、300種類以上の多彩な「もちの具」が生み出され、「もちのせき」といわれるほどもち文化が盛んな地域。もち食文化の聖地とも言えるこの地で、グルメの熱い戦いが繰り広げられます。

イベントでは全国各地のご当地もちを集め、模擬店で料理を提供。来場者には1食(400円)につき投票券(もちふだ)が配布され、それぞれがお気に入りのご当地もちに投票するグランプリ形式です。食欲の秋に、日本のもち文化に親しんでみてはいかがでしょうか。



来場者は試食後、お気に入りのご当地もちに投票。全国から集めた「おもち帰りもち」も販売する。



京津畑やまあい工房(岩手県一関市大東町)の「やまあいのお雑煮」。ひき菜汁の上に手切りしたもちを2切れのせ、煮鶏と三つ葉、なるとをトッピング。

※写真は平成28年のものです。
提供：ご当地もちサミット実行委員会

全国ご当地もちサミット2017 in 一関

日時：平成29年11月11日(土) 10:00～16:00
12日(日) 10:00～15:30

開催場所：一関文化センター前広場
(岩手県一関市大手町2-16)

問い合わせ：ご当地もちサミット実行委員会事務局
電話 0191-21-8413、0191-23-3434

詳細はこちらへ！



全国ご当地もちサミット